

フェフキダイ類、ミナミクロダイ、アジ類、カマス類、およびヒメジ類がそれぞれ約5%、クロサギ類と小型ハタ類が約3~4%、およびイカ、タコ類が約14%の比率である。図19にアイゴ類、図20にその他の主要魚類等の月間漁獲量変化を図示した。ゴマアイゴとアイゴ類は3月から6月頃にかけて漁獲にピークがみられ、また10月から12月にかけても比較的多い。コノシロ類は毎年冬季に漁獲量が多くなる傾向がみられ、カマス類も比較的夏季以外で漁獲量が多い。ヒメジ類とハタ類は夏季に漁獲量のピークがみられるが、ヒメジ類のピークが2~3か月早く現れる。メジナ類は比較的冬季の漁獲量が多く、クロサギ類とミナミクロダイでは漁獲量にハッキリしたピークはみられない。また、フェフキダイ類は9月を中心としてピークがみられ、特にハマフェフキを多く漁獲する。アジ類ではハッキリした漁獲量のピークは認められず、ベラ類は夏季に比較的多く漁獲する。ハリセンボン類は6月を中心として、イカ、タコ類は1月から4月頃にかけて、特にコブシメは1月から3月にかけてピークがみられる。

表9 人工礁設置効果調査

1986.7.15. 晴れ 水深14m

種名	数	場所
マダラエソ	2	S
ヘラヤガラ	1	I
ニセクロホシフエダイ	10	I
ヨスジフエダイ	100	I
ロウニンアジ(幼魚)	10	O
ミツボシクロスズメ	30	I
シロクラベラ	1	I
ブダイ sp.	2	I
タテジマキンチャクダイ	2	I
トゲチョウチョウウオ	1	I
フライチョウチョウウオ	2	I
ハタタテダイ	2	I
ツノダシ	2	I
クロハギ	1	I
シマキンチャクフグ	3	I
サラサバテ	5	S
カキ	20	S

6. 人工礁調査

1986年7月15日に定点に設置している1.5m角型コンクリート礁の調査を行った。魚類等の集集状況は表9に示す通り約17種類、200個体の魚類等が入工礁の外内に集集しておりヨスジフエダイ、ニセクロホシフエダイ、ロウニンアジ(幼魚)、およびミツボシクロスズメ等が比較的多くみられた。